

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】 平成 28 年度

事業所番号	2790200022		
法人名	株式会社 フィールド		
事業所名	グループホームこころあい海老江		
所在地	大阪府大阪市福島区海老江1丁目9番13号		
自己評価作成日	平成 28年 9月 13日	評価結果市町村受理日	平成 28年 11月 27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/27/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyosyoCd=2790200022-00&PrefCd=27&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人大阪府社会福祉協議会
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1-54 大阪社会福祉指導センター内
訪問調査日	平成 28年 9月 30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「ご本人はどのように暮らしたいのか」 利用者様の想いを大切にしその想いの実現が叶う事が大切と考えています。心と心が触れ合う事でぬくもりや安らぎを感じられる穏やかな暮らしのなかで、幸福を感じていただけるよう取り組み、利用者様と職員が暮らしています。又、地域の住人として散歩や様々な行事に出かけ、地域の方と挨拶を交わす等、海老江にしっかり根をおろしています。当初からの願いである、大きな家族になる事が玄関のぶどうのように実を結んできているのを実感しています。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

大阪・兵庫の6カ所でグループホームを運営する株式会社が7年前に開設し、代表者が唱える「人間力の向上」、管理者の「利用者の尊厳を大切に、個別ケアで利用者の暮らしの質を高める」ことを目指して職員全員が努力を重ねているホームです。ホーム建物は、内外部とも檜や桜材を多く使用した木造で、その香りや柔らかさをアクセントにした昭和レトロをイメージした建物で、利用者にも馴染みやすく、親しみやすい住居となっています。関係者の努力によって地域に溶け込み、住民の熱心なサポートを受け、家族の支援や散歩・外出が多く、有能で優しい職員と美味しい食事に支えられ、利用者は不安もなく、ゆったりと笑顔で過ごしています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	フィールドの理念を各フロアに掲げ理念を共有し日々のケアの実践につなげている。又、職員の行動指針として「私たちの誓い」を共有している。 コンピテンシーの研修を通して自分達の思いをまとめ海老江独自の行動指針を作成し共有しているところです。	法人の理念「心豊かにその人らしい安心ある暮らしを大切に愛と笑顔で共に歩む」を明示しています。そして、今年度の事業所の取組みとして、日常の職員の業務それぞれについて、コンピテンシー（業績優秀者に共通してみられる行動特性）研修手法により、職員が目指す最良の言動・行動を具体的に提案し合い取り纏めています。管理者は定例の全体会議やカンファレンス、勉強会、毎日の業務等を通じて職員全員と方針を共有し、介護サービスに反映させ、利用者が安心して楽しく生活を続けられるよう、家族、地域の方と共に支えています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域で生まれ育った利用者様もたくさんおられ、馴染み深いので、地域行事には意欲的に参加している。月1回コミュニティセンターで実施されている「ふれあい喫茶」へは、毎回参加しており、地域交流が図れている。包括や地域事業所のケアマネさんとも連絡を取り合い、利用者様が地域と繋がって暮らしていけるよう支援している。月2回の公園清掃に参加し、地域の一員として貢献できるよう努めている。	開設当初より、地域の住人として積極的に地域と関わりを深めています。自治会に加入し、月2回の公園清掃に欠かさず参加して、顔の見える関係づくりに努めています。毎日近隣へ散歩にかけ、顔なじみになった地域の方から気軽に声をかけてもらい、オヤツをいただくこともあります。また、地域行事の「夏祭り」「盆踊り」「運動会」には利用者全員で出かけていきます。日常的な双方向でのかわりの中で、職員はホームが地域に対して果たす役割や、貢献できることは何か、などを考えるようになりました。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の中で、地域の認知症の方の相談を受け、情報を共有している。社会福祉協議会開催の月1回の居宅連絡会や2ヶ月に1回の福島区在宅医療を考える会にケアマネや管理者が参加し、地域の方々の状況等を伺い、認知症についての質問を受ける等、情報を交換し、共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では毎回事故報告や行事報告等を行い、意見交換の結果を現場へフィードバックし、新たな取り組みやホームの運営とサービスの向上に活かしている。又、当日出勤している職員も出来るだけ参加し、交流を図っている。	運営推進会議は2カ月に1回開催しています。利用者家族、地元連合会会長、町会会長、民生・児童委員、女性会会長、地域包括支援センター職員などが出席しています。ホームの運営状況や行事、事故報告などが行われています。ホームの利用者や職員のこと、地域からの情報提供など、参加者それぞれが自由に意見を交換し、ホーム運営に活かされています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	福北認知症を考える会、居宅連絡会や介護ホーム連絡会、社会福祉協議会主宰の研修会や講座、自治会の交流会等に参加し、交流を深め協力関係を築いている。ホームに地域の民生委員やチャイルドサロンのボランティア活動が続けている職員が居り、地域との橋渡しをしてもらいながら、地域と協力関係を築いている	管理者は区の担当職員と報告や相談、情報交換に努め、協力関係を築いています。また管理者は、グループホームだけでなく、有料老人ホームやサービス付き高齢者向け住宅など幅広く事業者が集まり、区、地域包括支援センターも参加する「介護ホーム連絡会」に出席して情報交換し、協力体制の構築に努め、参加事業者全体の空室状況も把握して運営に活かしています。職員は社会福祉協議会の居宅連絡会や研修会、医師会主催の在宅医療を考える会に出席し協力関係を作っています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ホームにおける研修を通し、入居者様の身体面から心情に至るまで 尊厳を守る取り組みをしている。また 職員同士 相談し合いながら拘束の無いケアを心がけている。 立地条件や家族様の要望により 事務所に人のいない時は玄関の施錠をしているが 一定時間は開錠しており入居者様が外出を希望されるときは随時職員が同行している。洗濯物干しや庭掃除、花の水やりにも入居者様をお連れし、いつでも外出できる事を体感してもらっている。	職員は、年間の研修計画に従い、身体拘束排除や虐待防止について研鑽し、利用者の尊厳を守らない行為・言動も身体拘束と定義し、より高い目標を掲げて意識を高め、身体拘束のないケアに取り組んでいます。玄関扉は家族の訪問や利用者の外出の多い日中の時間帯には開錠しています。外出願望のある利用者については、見守りと付き添いで対応しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内において 虐待防止についての勉強会を行い また社外研修に参加することによって理解を深め 虐待防止に努めている。また職員同士、些細なことでも指摘し合える環境を作り 虐待が見逃されないようにしている。打撲痕を確認した時は必ず原因を検証し、結果を共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社外研修や入社時、新入職員研修で学び、ホーム内研修でも知識を深め、必要時に活用できるよう取り組んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結時には、専門的な用語を用いず、項目毎に充分時間をかけ説明し、不安や疑問点を尋ねながら理解、納得していただけるよう進めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に相談・苦情対応窓口(ホーム内のみならず、外部機関の窓口も)を明記するとともに、玄関にも責任者名を掲示している。投書箱を設置し、また、地域住民代表による苦情受付担当者の設置等広い間口での環境作りに努めている。 ご意見や苦情に対しては、真摯に受け止め運営に反映させている。	毎年「敬老会」に合わせて家族会を開催しています。家族会ではホームの運営について報告し、利用者と一緒に食事を楽しんでいます。家族の面会も多く、職員から積極的に声をかけて意見や要望などを聞き取るようにしています。毎月1回、担当職員が利用者の近況を記入し写真を添えて、「こころあいだより」を家族あてに送っています。管理者も毎月1回家族あてにホームの運営や職員の状況などを文書で丁寧に伝えて、家族との信頼関係を築く役割を果たしています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	何かあれば職員はフロア主任に相談し、両フロア主任、管理者で話し合っている。管理者も随時聴き取りを実施し、提案等は、代表者、幹部職員が集う運営会議で提起し、検討後フィードバックしている。また、月1回のホーム内全体会議やカンファレンスでも意見を述べる機会を設け、運営に反映させている。一緒にホームを運営しているという意識を共有し、理想のホームとなるよう取り組んでいる。	管理者はフロア主任を通じて、職員の意見や提案を聞き、話し合いをしながら意思疎通を図り、職員が業務にスムーズに取り組めるように支援しています。そして、主任やケアマネジャー、危機管理担当者、レクリエーション担当者には、課題を洗い出し考えをまとめるために月4日の事務日を与えています。こうした努力が実り、職員に対する家族の高評価が得られています。また職員とは、定期的に個人面談をする機会も設け、研修や資格取得に対し、時間面や金銭面での支援をしています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務表作成にあたり、事前に月2日の希望休暇を聴き取り、他にも個々人の諸事情に応じる勤務体制を整えている。不安や問題があった時は随時面談し、意思の疎通を図っている。 定例のホーム内全体会議において、ホームの方向性を伝え、意見を出し合い、やりがいや向上心が持てる職場環境作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員からのケアに関する不安や学びたい事聞き取り、月1回の勉強会にて不安解消・知識向上を図っている。勉強会では資料を基に職員主導で勉強会を実施している。 働きながらの資格取得に関しても、勤務体制や金銭面での応援制度を設け、介護福祉士、ケアマネ資格取得応援制度、防火管理士、実践者研修、リーダー研修等社外研修も積極的に受講出来るよう支援し、参加して得た情報は職員間で回覧・共有している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括支援センターの居宅連絡会や医療を考える会、介護ホーム連絡会、各種勉強会に積極的に参加し情報交換を行い、交流している。又、見学会にも積極的に参加し、意見交換を行い、サービスの質の向上に反映させている。福島区や近隣の施設と連携し空室情報を月 1 回まとめ、共有している。空室の問い合わせがあった時はその情報を活用し、空いているところを紹介している。 福島区の有料老人ホームさんが催され月に月 1 回位の割合でお誘いを受け、入居者様を数名お連れし、参加している。 北区の特養で年に 1～2 回開催されている年に 1～2 回事例発表会に毎回参加している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人やご家族から伺った生活歴などについての情報をもとに ご本人がどのような暮らしを求めているのかを 普段の会話や行動から感じ取り 管理者、ケアマネ、職員間で共有し 意見交換を行っている。また、ちょっとしたしぐさや表情から思いを汲み取れるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居を希望された時から 面談や電話連絡を通して現状をお聞きする中で 不安や要望を把握し 相談に応じながら信頼関係が築けるよう努めている。また、入居された後も 気づきの点があれば すぐに申し出ていただくようお話ししている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族共に 担当者会議に参加していただき まず必要なことは何かを見極め カンファレンスにて情報の共有と意見交換をしてご本人に寄り添ったサービスができるよう努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、本人様本位の生活に寄り添いながら、役割を持ち、日々の生活の中に生きがいを見出し、安心して生活出来るようサポートさせていただいている。又、人性の大先輩でもある入居者様より、様々な事を教えて頂き、尊敬の念を持ちながら、共に暮らす大きな家族と捉え、信頼し合える関係を構築している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員と家族様との関係が、一方通行にならない様、お便り(「こころあいだより」)やお電話はもとより、運営推進会議や家族会の開催等、良い事も、悪い事も報告し、一緒に考え、知恵を出し合い、共に本人様を支えるという関係を構築している。面会時には、日々の様子を伝え、介護記録を見て頂くようにしている。 日常はもちろん、遠足や行事にも積極的に関わって頂いている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方が来訪された時は、楽しい時間を過ごしていただけるよう環境を整えている。又、どんな時間にも来ていただけるようお声掛けしている。ご本人が馴染みの場所と関係が途切れないように、日常会話の中にその話題を取り入れたり その場所に出向いて馴染みの方との交流を支援している。	職員は、利用者が馴染みの散髪屋や寿司屋に行きたい時に支援したり、退去した利用者の家族に歌のボランティアとして訪問してもらうことなどもあります。また利用者が空き家になっている我が家の様子を見に帰り、庭の水やりを支援するなど、利用者の思いを実現し、利用者が大切に思う馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支えています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様一人一人の性格、時代背景に配慮し、相性もふまえ良好な関係を構築、維持できるように居場所を確保している。入居者様同士のコミュニケーション力にも配慮しながら、一人も孤立する事無く、安心できる居場所を提供している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後の生活環境にも留意し ご家族からの相談や想いに随時対応し、情報交換や助言を行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話や行動、少しの変化、表情、しぐさなどから その方の思いや希望を汲み取っている。また、ご家族との会話の中においても情報を得て カンファレンスや日々の業務に」において全員で共有、把握している。	当初のアセスメントやその後の暮らしのなかで、利用者と家族から聞き取ったり、表情やしぐさから汲み取った希望や思いをその利用者の尊厳の表現と捉え、介護記録に記録し、センター方式の「私の姿と気持ちシート」にも記録して、情報を全職員が共有し、その実現に努力しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に行うご本人やご家族との面談の中で可能な限り情報を得、できるだけ早く馴染んでいただけるように その情報をもとに生活環境を整え これまでの生活に近づけるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタル測定や職員間での申し送り、医師や看護師との連携により、身体状態を把握すると共に その方の表情の変化や会話の内容、行動より 心身の状態を読み取るよう努めている。一日の過ごし方についても あらゆる情報をもとに どのように過ごしたいのかを見極め それに沿った支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人とは 日常生活の中で 希望や意思について随時お聞きしている。また ご家族には ご本人の様子を 訪問時や電話にて伝え、相談、話し合いをしている。職員間においては 月 1 回開催されるカンファレンスや毎日のモニタリングにて 課題、その修正や変更について確認し 6 ヶ月ごとにケアプランの見直し、更新を行っている。体調など変化のあった時は 連携医やご本人、ご家族と相談し 新しい介護計画書を作成している。	介護計画は6ヵ月毎に、また状態の変化がある時はその都度、見直しを行っています。職員は介護計画の支援内容を専用の介護記録表で毎日モニタリングし、居室担当者は月毎にまとめのモニタリングをし、カンファレンスで協議し記録を残しています。そして定期的に計画作成担当者と居室担当者が話し合って家族も参加するサービス担当者会議を開き、介護計画の見直しにつなげています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員は ご本人の日々の様子は、表情や言動、あった事をそのまま記録し、全員で共有している。また、申し送りや申し送りノートにおいても 情報共有を行っている。個別記録においてはケアプランに則した内容も記録している。介護計画をもとに 実践を行い、カンファレンスなどで情報交換し、変更すべき点があれば見直しを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様、家族様の希望に応じ、好きな時間での面会、外出、外泊等のニーズに応えられるよう支援している。 (望まれる買い物・外食等) 又、訪問リハビリや訪問マッサージを活用する等、ご本人のニーズに柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人は心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議を開催し、社会福祉協議会、自治会、民生委員会、女性会各位とご家族と定期的に交流し、ご本人の安全で豊かな暮らしについて共に考えている。また 地域の行事などにお誘いをいただくので 参加し楽しい時間を持って頂くよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	連携医(内科)による定期往診(週1回)、定期検査により、日々の健康管理を通して状態の安定に努めている。緊急時には、連携医の指示を仰ぎ、家族様にも直ちに連絡し、必要に応じて、紹介状を書いて頂き、専門医療機関にて受診している。	今年度から新規の協力医療機関に切り替え、担当医師の月2回の往診を受け、同じ医療機関の訪問看護師から週2回の必要な看護を受けていて、家族に喜ばれています。歯科医師の往診もあります。他科の受診時には、必要に応じて通院介助を行っています。協力医療機関と連携して、夜間や緊急時の対応についても万全な体制を整備しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎朝のバイタル測定値や身体状況を介護記録に記録し、週2回の訪問看護の時と月2回の全体往診時に医師・看護師往診(訪問看護)時報告書を用いて利用者の状態を共有している。身体的状況の把握の中で気付いた事や気になる事があれば、週2回の訪問看護時に報告・相談し、指示を受けることで、早期対応(適切な受診や看護)と悪化防止に努めている。 また、訪問看護師から受けた指示や助言は日々の申し送りや申し送りノートで、職員同士で共有し、日々のケアに反映させている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入居者様が入院した際は、週単位での面会による状況把握させていただくとともに、食事時間帯に面会(訪問)し、食事のお手伝いをしたり、ご本人の要望を聞き取る等、リメンタル面でのケアもはかっている。退院時には医師等の病院関係者からの指示や助言を受け、退院後の日常生活の留意事項の把握に努めている。又、退院後の経過観察も含め、病院関係者との関係継続に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の契約時にご本人、家族様が希望された場合は看取りを行っている事を伝え、説明している。又、重度化したり、終末期が近づいたと医師が判断した場合は再度、家族様と面談し、看取りの説明を行うと共に話し合い、ご本人や家族様の意思を確認している。職員にも都度、看取りの研修を行っている。	ホームは看取り実施の方針をもち、契約時に利用者の意向を確認しています。過去に看取りの実績もあり、今回の外部評価訪問日の直前にも看取りを行っています。今後も利用者が重度化した場合、できるだけホームでの生活が続けられるよう、状況の変化とともに、利用者や家族、医師、看護師、職員間で話し合いを行い、方針を共有しながら対応していく予定です。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	適宜、看護師に応急手当、緊急時の対応等の指導を受けている。大阪市の上級救急講習を受け AED の使用法や救急救命の実践力を身につけている。社内勉強会を通し、情報を共有している。なお AED も設置している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害マニュアルを職員に周知し、緊急連絡網の活用、避難経路の確認等危機管理委員会主導で必要な対策を講じている。年2回消防署の協力の下、全入居者様、職員で避難訓練を実施している。別に夜間を想定した訓練も自主的に実施し、災害に備えている。食糧や水も確保し備蓄している。	年2回の夜間想定を含めた火災・災害避難訓練を実施し、その内1回は消防署の指導・承認のもと実施しています。災害時の食料と水の備蓄については危機管理担当職員が定期的に備蓄量の点検を行うことにしています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様の個人情報や入浴時、排泄時等、入居者様のプライバシーを損ねないように利用者様一人ひとりの尊厳や人権を守りながら声掛けなどを行い、支援している。	職員の言葉かけや態度は明るく、利用者一人ひとりを人生の先輩として尊重し、誇りやプライバシー、尊厳を損ねないよう配慮して、丁寧でやさしい雰囲気をもって接しています。職員は年間計画に従い、事業所のプライバシーや接遇、人権の研修を受け、意識の向上に努めています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃の会話の中で ご本人の思いや希望を見出しその上でいくつかの選択肢を示し自己決定できるように働きかけている。また、自己決定や意思表示の困難な入居者様の表情や発語、動作などから意思を汲みとり、自己決定に結びつくよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様の体調や個々の状況を把握した上でその人らしい時間を過ごしてもらえるように努めている。入居者様が個々のペースでフロアにて他の入居者様と過ごし 歌などのレクリエーションを楽しんだり 居室にて過ごす等 希望に沿った暮らしができるよう支援している。また散歩や買い物などの希望があった時は付き添い安全のもとに楽しめるよう支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者様が毎朝整容し自分で選んだ服を着てその日を過ごせるよう支援している。意思表示の困難な方には声掛け、介助にてその人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している。化粧や髭剃りなども個々にされるのを安全面に配慮し支援している。訪問美容により カット、パーマ、毛染めなどその人らしいおしゃれが楽しめるよう支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備の段階から利用者様と一緒に色々会話しながら、調理の補助や、食事の準備、盛り付けや後片付けなどをしていただき、食べる事だけではなく、楽しんでいただけるように取り組んでいる。	食材は業者より配達され、毎日3食ユニットごとに炊飯、調理しています。利用者はそれぞれができることを役割分担して皆で調理、盛り付け、配膳、後片付けを行っています。ホームでは、できるだけおいしく、食べたいものを食べていただくことを大切にしています。月に1回「食レク」として利用者の希望に添って買い物から調理までを利用者と一緒に行ない、焼肉、雛寿司、ケーキ作りなどを楽しんでいます。外食も積極的に行い、スカイレストランや割烹にも出かけています。今年の敬老会では「天ぷら屋」にホームに来てもらい、揚げたての天ぷらを家族と共に楽しみました。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスについては、食材提供会社よりカロリー計算されたメニューに合わせた食材が提供され、利用者様個々の食事形態に合わせてホーム内で調理して提供している。水分補給に関しては、1日最低でも1,000cc摂取してもらえるようにいつでも自由に飲んでもいただけるよう、好きな飲み物(カルピス、コーヒー、ヤクルト、緑茶、柚子茶等)を用意し、職員も利用者様の体調を考慮、観察しながら積極的に水分摂取していただけるように努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々に応じたお声かけ、見守りを行いながら、自己にて困難な部分を介助させて頂き口腔ケアを実施している。義歯の方は、夜間預かり義歯洗浄を実施し薬剤につけて保管している。 又、週1回歯科医師による往診、口腔ケアを受けられる等、専門性の高い口腔ケアの提供にも努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを記録し、個々の排泄状況を把握した上で、排泄のお声かけ・誘導を行っている。又、失禁の軽減が図れる様、声かけの間隔や状況に配慮し、安易におむつを使用せず、出来る限りトイレで排泄していただけるよう支援している。	排泄記録をとり、利用者一人ひとりの排泄パターンや習慣を把握しています。利用者のしぐさや表情から状況を判断し、声かけや誘導、見守りにより、全員がトイレで排泄ができています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤の使用のみに頼らず、水分摂取量の調整や、乳酸製品の摂取、芋、バナナ等繊維質の多い食物摂取に努め、腹部マッサージや体操等を行い予防に努めている。 訪問看護師や医師と連携し、便秘の解消等適切な支援をしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	職員の見守りが十分に出来る安全な環境で入浴していただけるよう時間帯の配慮を行っている。入浴の時間や浴室の室温、脱衣所の温度などは利用者様の体調を考慮し、利用者様一人ひとりが入浴を楽しんでいただけるよう支援している。また、菖蒲湯、ゆず湯、ミント湯などの季節湯で楽しんでいたなどしている。	利用者は平均して週3回、好みの入浴剤を使って入浴しています。希望すればいつでも入浴できます。入浴を好まなかった利用者が、入浴剤を使用することで他の利用者と同じように入浴できるようになった事例もあります。菖蒲湯やゆず湯、ミント湯などの季節の行事風呂も楽しんでいます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様個々の体調やニーズは毎日変化するので、体調管理を十分に診ながらも、出来る限り本人様の希望や要望に添えるように取り組んでいる。 気持ちの昂り等で眠れない時には寄り添って傾聴し、また、会話をしたり、足浴などを行ったりして、安心していただけるよう取り組んでいる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬については、全職員が把握し、薬の変更、増減に関しての把握も薬情の確認や申し送りを通して周知徹底している。 服薬介助の際には、ミスがないよう三重チェック態勢での服薬支援を行っている。 又、服薬後の状態観察も怠らず、職員間で情報共有し、医師・看護師に報告している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	職員は一人ひとりの生活歴を入居時に全員で把握し、入居後の様子と合わせてその人に合った役割(花の水やり、掃除、モップがけ、食事の準備等)楽しみごと、気分転換の支援をしている。また、嗜好品についても状態、表情、言動の中から、今その方が何を必要としているのかを見極めその人に合った支援ができるように努めている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近くから入居され、家が気になる方や帰宅願望のある方については職員が同行して家に帰っている。又、その時、近所の方を訪問し交流を支援している。入居者様の希望に添って外出(散歩、ドライブ、買物)していただけるよう配慮している。 又、家族様の協力の下、一緒に散歩や外食、一時帰宅等の支援を行っている。	利用者はほぼ毎日、ホーム周辺に散歩に出かけています。玄関前のぶどうやゴーヤの水やり、近くのコンビニまで週刊誌を買いに行ったり、日常的な外出支援が行われています。年に数回は普段行けないところへ「遠足」として、中之島バラ公園、鶴見緑地、大阪城公園などへも全員が出かけて、行先でのレストランなどでの食事もしみもの一つとなっています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の管理については、家族様から一定額を預かり、外出の際、本人に手渡し、自ら考え買い物をして頂いている。精算の際には本人様にお支払いしていただくよう同行の職員が見守っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本院自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	本人様の希望があれば、自由に電話や手紙のやり取りをして頂ける様お声かけをしている。 家族様にも「何時でも電話して下さい」と伝え取り次いでいる。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共有空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間の壁に季節に応じた装飾や、入居者様の作品(塗り絵等)を展示し、和めるような雰囲気作りを心掛けている。昭和レトロの雰囲気を大切にし、アンティークな小物を随所に配置し昔を懐かしめる雰囲気を醸し出し、落ち着いた環境で過ごして頂いている。 又、玄関には地域の方の協力の下、季節の花や手作りの創作物を置く等、ホーム内でも季節を感じていただけるよう心掛けている。 共用空間、各居室の室温・湿度に配慮し心地良く過ごしていただけるよう努めている。	ホームの建物は共用空間を含め、内・外部とも檜や桜材を多く使用した木造で、壁にも珪藻土を使い、その香りや柔らかさをアクセントにし、昭和レトロをイメージして造られています。玄関や2階の踊り場には、家族や地域の方が季節に合わせて持ち込んでくれる生花や昔の電話機、柳ごうり、革のトランクや置物、手作り作品があります。共用空間部分にも蓄音機などの道具類、昔懐かしい映画のポスターなど、利用者が若かった頃の昭和の雰囲気が漂っています。また、共用空間には季節感をだすため菊や赤とんぼの貼り絵があり、季節の果物や魚などの絵が飾り付けられ、利用者の笑顔が目立つ大判の行事写真も貼られ、明るい雰囲気があります。畳コーナーやソファ、椅子など、さまざまな場所で家族や利用者同士で寛いでいる光景もあり、高齢者に優しく親しみと家庭的な雰囲気のある空間になっています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食卓の椅子の他に数ヶ所に大小のソファを配置し、畳コーナー等入居者様個人個人が好きな場所に入居者様同士や家族様との会話を楽しまれながら過ごされる等、リラックスしていただける空間作りを心掛けている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様が入居なさられる以前の生活とホームでの生活との変化を最小限にとどめていただけるよう各居室には入居者様のご自宅で使用されていた家具やテレビ、衣類などを持ち込んでいただき、家具の配置も本人様が混乱されないよう配慮して、利用者様が居心地よくすごしていただける居室になるよう心掛けている。また家族写真や思い出の物を飾るなどしていただき、心地良く過ごしていただけるよう心掛けている。	居室には利用者に馴染みのある古風でくつろげる木の椅子と丸机、化粧品、書籍、電気スタンドなどや、思い出の品である仏壇、家族の写真、手芸作品、ぬいぐるみなどが持ち込まれ、家族が作った彫刻像、ペーパーフラワーもあり、家族の思いが感じられる个性的で居心地よく過ごしやすい雰囲気になっています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		〇一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様個々の介護計画を基に利用者様一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして生活意欲の向上に繋がるような声掛けや役割を共有し、自己能力を出来る限り活かしていただけるよう支援している。安全面においては、危機管理委員会を中心に安全かつ利用者様の自立支援に繋がるような環境を作れるよう全職員で取り組んでいる。		